みらいの福祉施設整備に関する
アンケート調査報告書
【集計結果】

令和４年１月

麻績村

【目次】

第1章　調査目的・方法・・・・・・・2

第2章　調査結果・・・・・・・・・・3

1.　回答者属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2.　福祉について・・・・・・・・・・・・・・・・6
3.　村の福祉施策について・・・・・・・・・・・8
4.　高齢者支援について・・・・・・・・・・・・9
5.　障がい者支援について・・・・・・・・・・・11
6.　ひきこもり者支援について・・・・・・・・・13
7.　生活困窮者・生活保護受給者支援について・14
8.　児童福祉支援について・・・・・・・・・・・15
9.　LGBTQについて・・・・・・・・・・・・・・・17
10.　福祉と地域産業について・・・・・・・・・・18
11.　さいごに・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

第1章　調査方法

１．目　的

麻績村での地域共生社会の実現に向けて、今後どのような福祉施設整備を進めることが最良であるかを判断する材料として本アンケートを実施し、住民の意向をふまえた、みらいの福祉施設建設・運営の基礎資料とすることを目的とする。

２．実施概要

◇　調査対象者：令和3年12月1日現在、麻績村に住んでいる18歳以上の方

◇　対象者数　：1,047戸（各戸1回答／全戸配布）

◇　調査期間　：令和3年11月26日～令和3年12月17日

◇　調査方法　：郵送による配布回収

２．回収結果

◇　配布数：1,047部

◇　回収数：370部

◇　回収率：35.3%

３．調査集計にあたっての留意事項

◇　回答結果は小数点第2桁目を四捨五入しています。この関係で、単回答（複数の選択肢から一つだけを選ぶ形式）の合計値が「100.0」にならない場合があります。

◇　複数回答（二つ以上の回答を選ぶ形式）における割合の単位はパーセントとしています。この場合回答は有効標本数全体に対してそれぞれの割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはなりません。

◇　本報告書における「SA」「MA」「FA」「N」はそれぞれ以下を示します。

「SA」　単回答のこと（Single Answer　の略）
「MA」　複数回答のこと（Multiple Answer　の略）
「FA」　自由回答のこと（Free Answer　の略）
「N」　回答者数のこと（Number　の略）

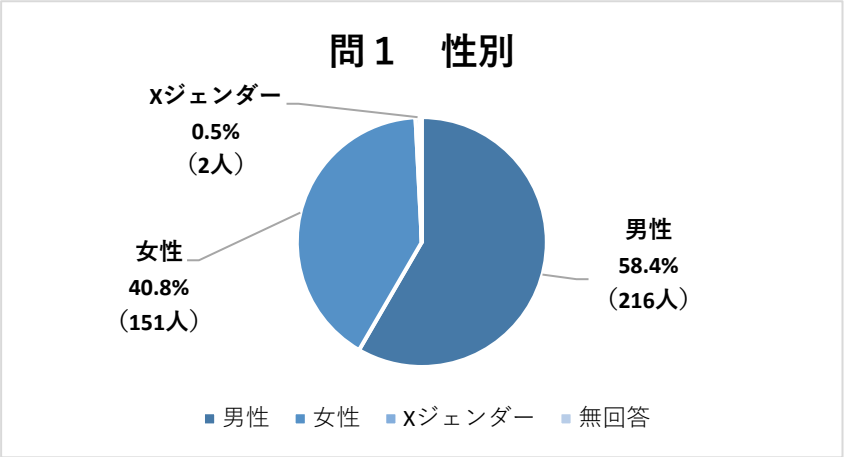
◇　本文中の設問の選択肢について、長い文章は報告書では簡略化している場合があります。

第2章　調査結果

Ⅰ．回答者について

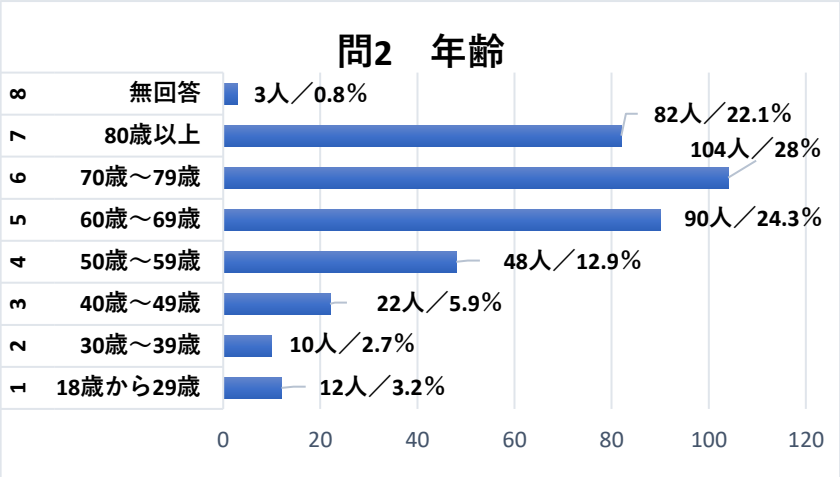
問１　性別（SA　N＝370）

「男性」（58.4%・216人）、「女性」（40.8%・151人）、「Xジェンダー」（0.5%・2人）、無回答（0.3%・1人）となっています。



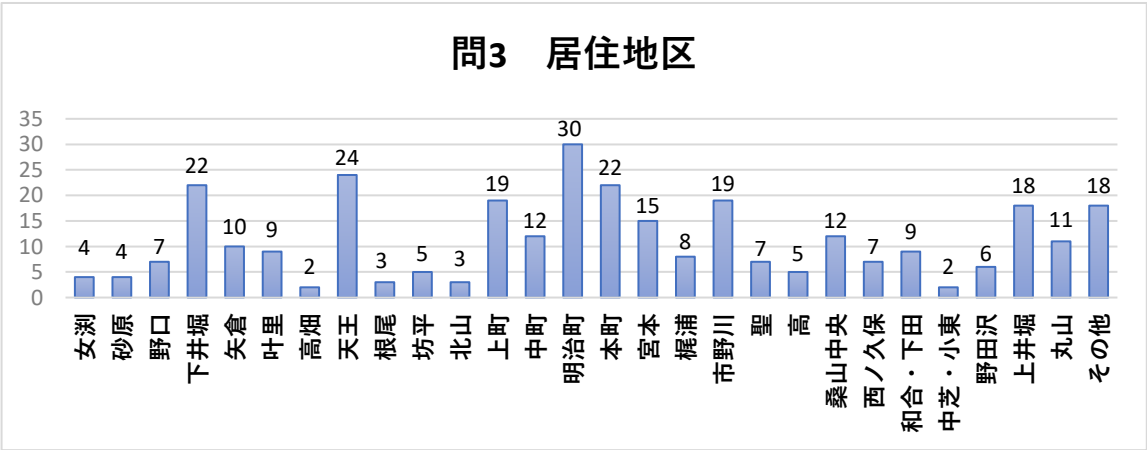
問２　年齢（SA　N＝370）

70歳～79歳（28.0%・104人）が最も高くなっています、60歳～69歳（24.3%・90人）、80歳以上（22.1%・82人）と続きます。60歳以上の比率が全回答者の74.4%に達します。



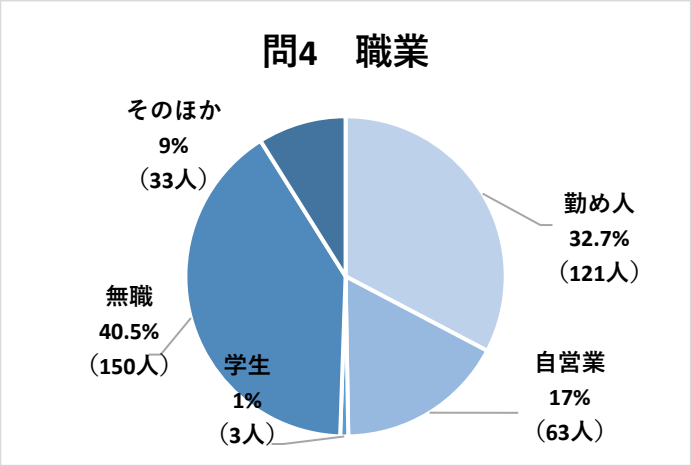
問３　居住地（SA　N＝313）

「明治町」（30人）が最も高く、次いで「天王」（24名）、「下井堀」（22名）、「本町」（22名）と続きます。



問４　職業（SA　N＝370）

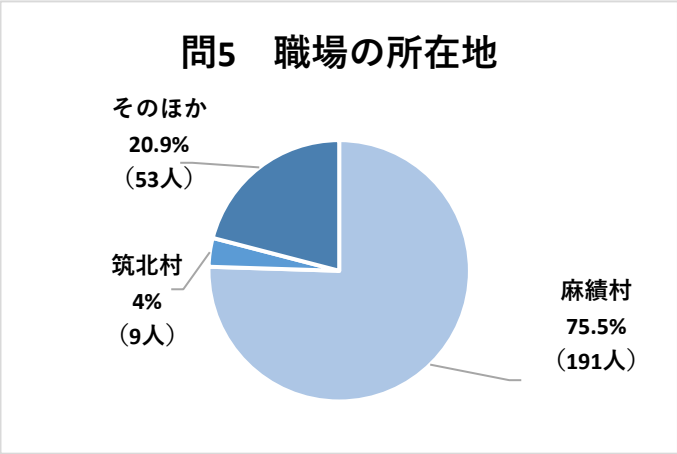
「無職」（40.5%・150人）が最も高くなっています。次いで勤め人（32.7%・121人）、自営業（17.0%・63人）と続きます。



その他回答	類似回答数
主婦	2
取締役	1
年金生活	2

問５　職場の所在地（SA　N＝370）

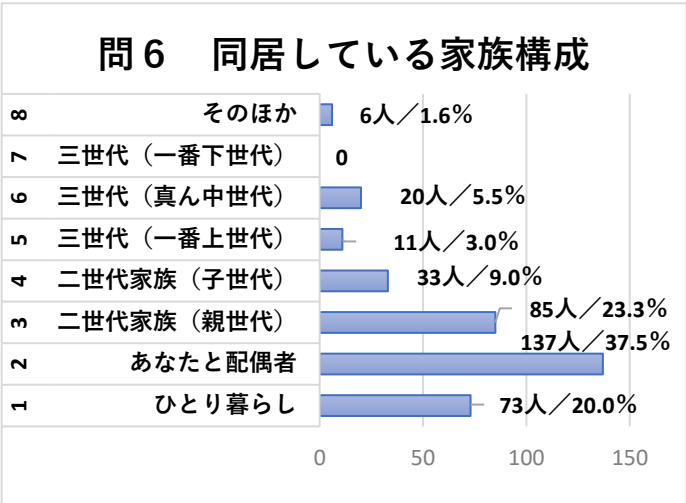
「麻績村」（75.5%・191人）、次いで「その他」（20.9%・53人）と続きます。その他の内訳では「長野市」（52%・12人）、「松本市」（34%・8人）となっています。



その他回答	類似回答数
松本市	8
長野市	12
安曇野市	1
千曲市	1
海外	1

問６　家族構成（SA　N＝365）

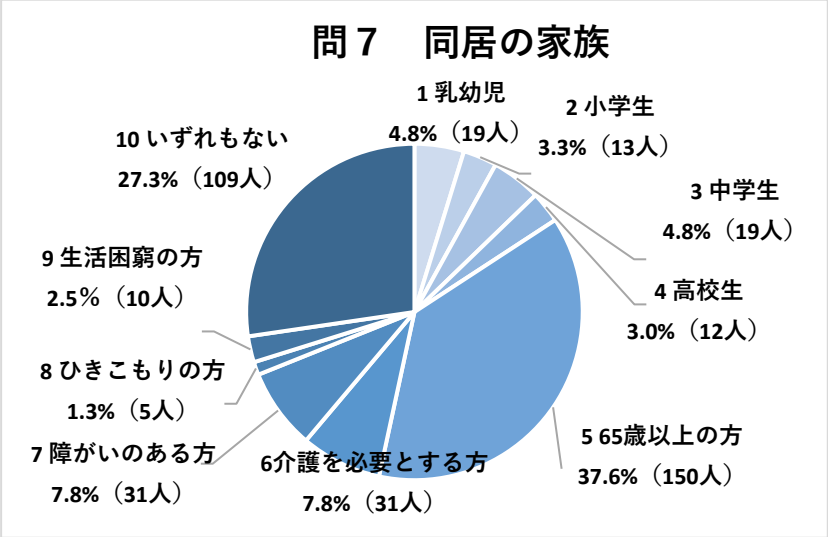
「本人と配偶者」（37.5%・137人）が最も高くなっています。次いで「二世代家族（親世代）」（23.3%・85人）、「ひとり暮らし」（20.0%・73人）と続きます。



その他回答	類似回答数
ひとり暮らし（別居）	1
同居人	1
兄弟住まい	1
学生	1

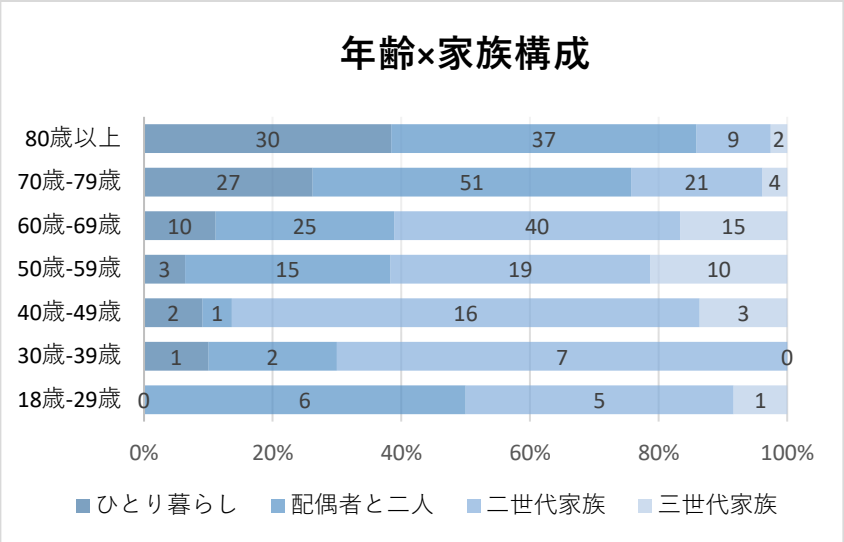
問７　同居者家族構成（MA　N＝399）

「65歳以上の方」（37.6%・150人）が最も高くなっています。次いで「いずれもない」（27.3%・109人）、「介護を必要とする方」（7.8%・31人）、「障がいのある方」（7.8%・31人）と続きます。



◆　年代と家族構成　（クロス集計　年齢×家族構成）

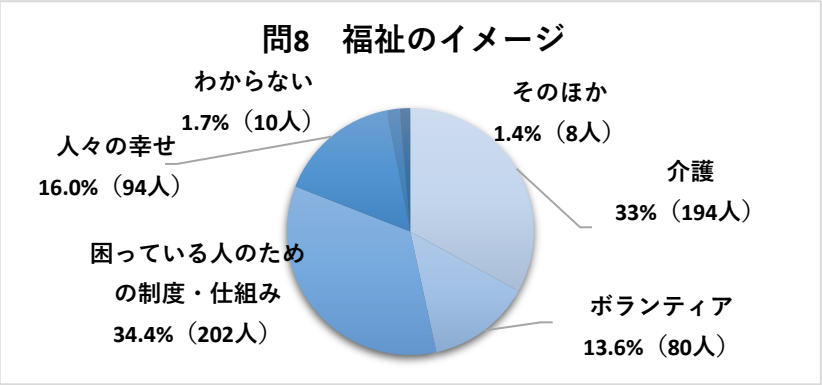
・70歳以上は「ひとり暮らし」、「配偶者とふたり」世帯が急激に増え、70%を上回ります。
・40歳-49歳では「二世代家族」「三世代家族」の割合が85%を上回ります。



２．「福祉」について

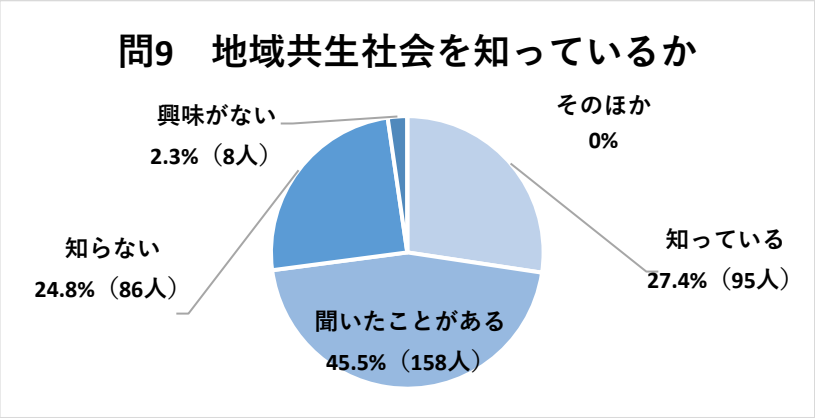
問８　福祉のイメージ　（MA　N＝588）

「困っている人の制度・仕組み」（34.4％・202人）、「介護」（34.0％・194人）が高くなっており、次いで「人々の幸せ」（16.0％／94人）、「ボランティア」（13.6％／80人）と続きます。



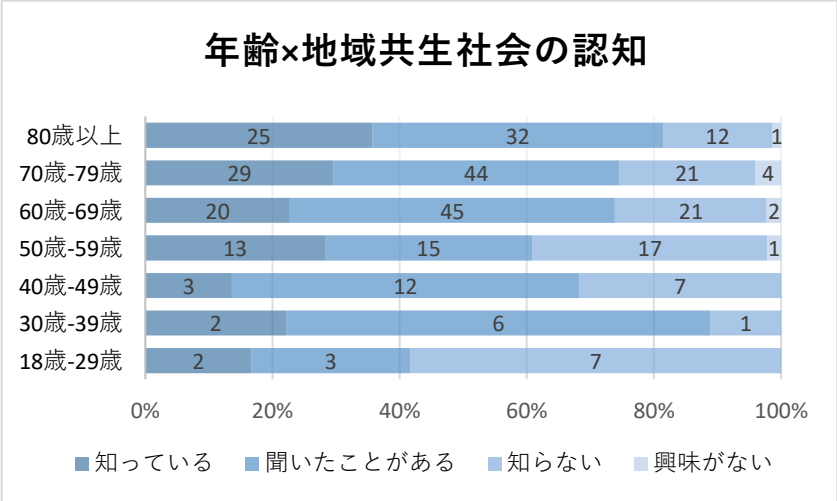
問９　地域共生社会を知っているか　（SA　N＝347）

「聞いたことがある」（45.5％・158人）、「知っている」（27.4％／95人）、「知らない」（24.8％／86人）と続きます。



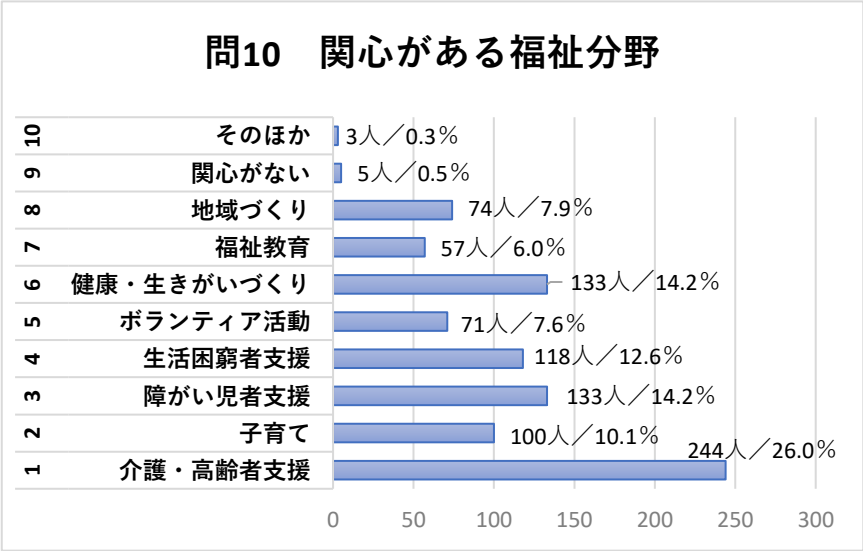
◆　年代と地域共生社会の認知　（クロス集計　年齢×地域共生認知）

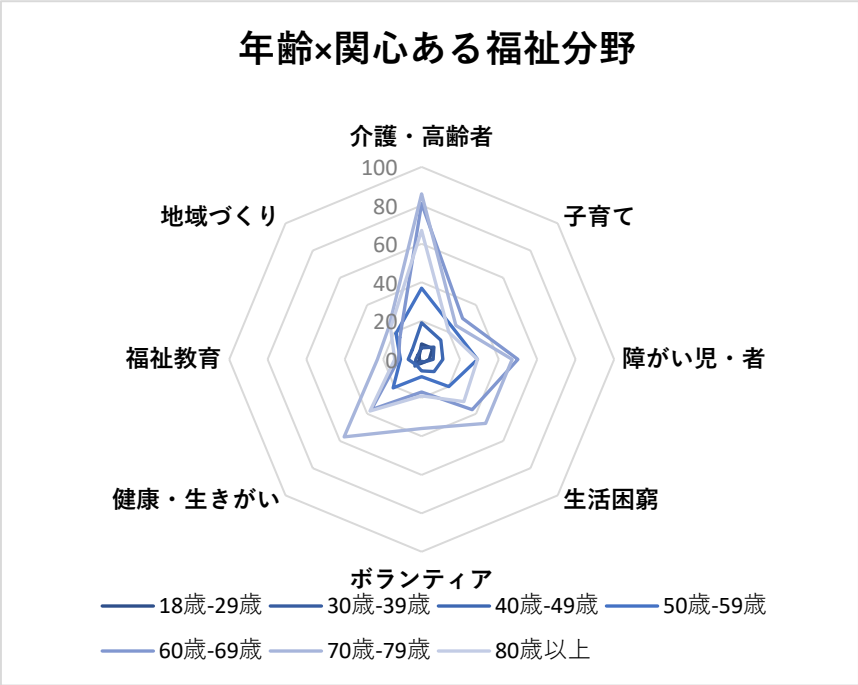
・40歳以上の60％以上が「知っている」、「聞いたことがある」を選択しています。
・30歳-39歳は約90％が「知っている」、「聞いたことがある」を選択しており突出しています。



問１０　福祉について関心のあること（MA　N＝359）／年齢と関心の関係（クロス集計）

「介護・高齢者支援」（26.0%・244人）が最も高く、次いで「健康・生きがいづくり」（14.2%・133人）、「障がい児・者支援」（14.2%・133人）が同率で並んでいます。年代の違いによる関心の差は大きく見られませんでした。

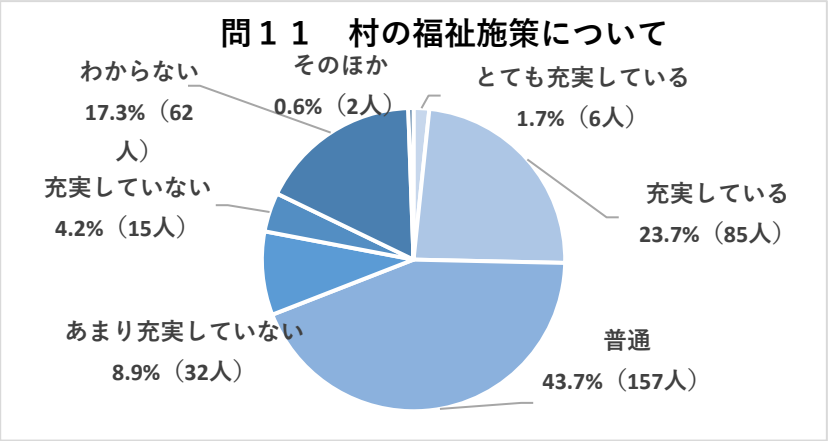




３．村の福祉施策について

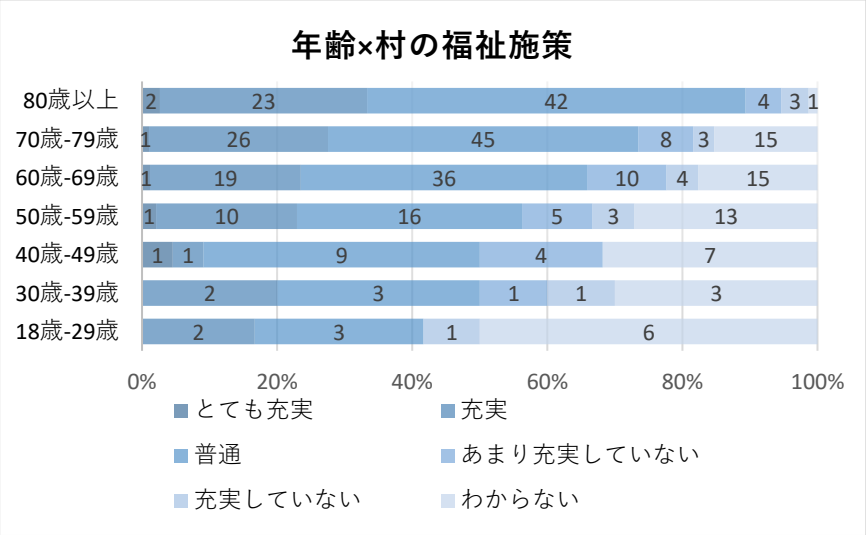
問１１　村の福祉施策についてどのように思うか　（SA　N＝359）

「普通」（43.7%・157人）が最も高く、次いで「充実している」（23.7%・85人）、「わからない」（17.3%・62人）と続きます。



◆　年代と村の福祉施策への評価　（クロス集計　年齢×村の福祉施策）

・年齢層とともに「とても充実」、「充実」を選択する割合が増える傾向が見られました。
・40歳-49歳の年齢層は90%以上が「普通」、「あまり充実していない」、「わからない」を選択しています。



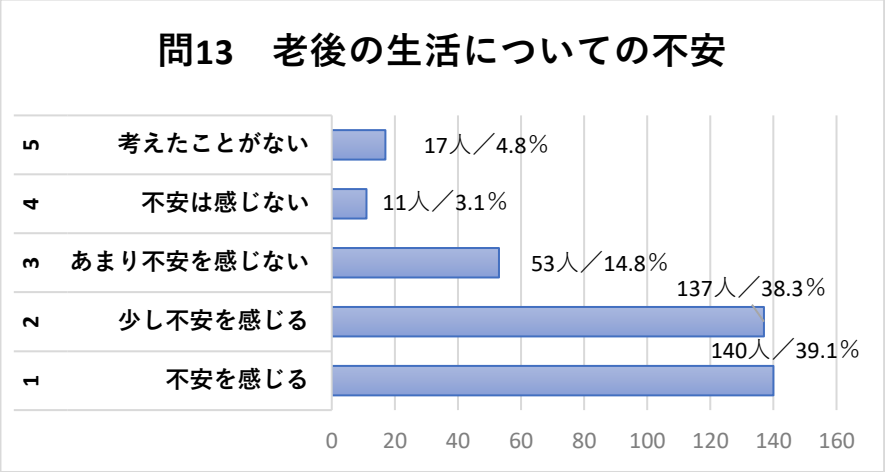
問１２　村の福祉施策について思うこと（FA　N＝173）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
村からの情報が少ない、具体的な内容を知らない	39	介護保険料の割には充実していない	2
ひとり暮らしになったときが不安	28	筋力低下を防ぐ施設が欲しい	1
役場の個別対応が早い、丁寧、対応が良い	17	健康教室が充実している	1
分野で偏りがある	16	仕事がない	1
高齢者福祉が充実している	11	村の施設はバリアフリーで充実している	1
特筆すべきことはない	9	給付金が充実している	1
昔に比べれば充実している	7	無線広報での情報提供をよく頑張っている	1
公共交通機関・移動の課題	7	社会福祉協議会に相談できる	1
役場への不満がある（事務処理・個人情報保護・やる気）	7	名ばかりの民生委員がいる	1
施設がない・施設に入れない	5	筑北村と合併した方がよい	1
興味がない・関係がない	4	カフェや集いの場所がある	1
色々な支援を受けることができる	4	歩道が少ない	1
在宅介護の支援が足りない	3	福祉人材不足	1
各機関や住民との連携が不十分	2		

４．「高齢者支援」について

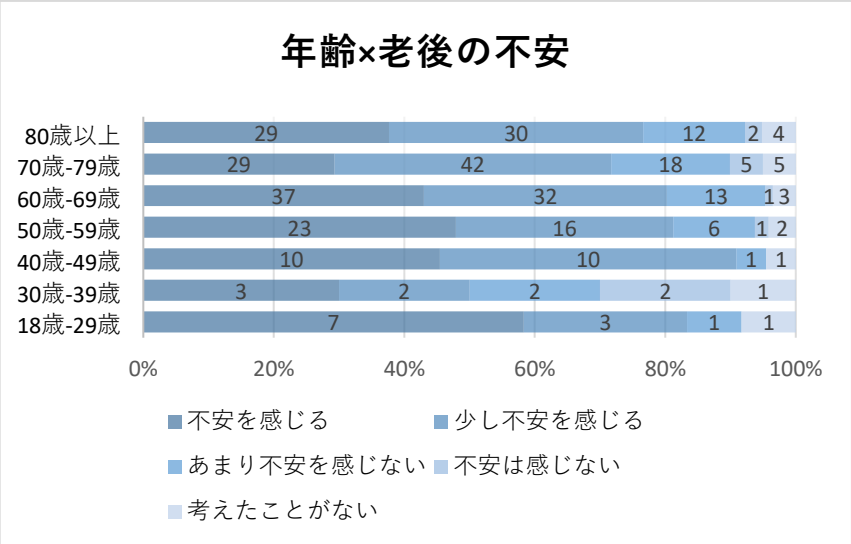
問１３　老後の生活に関する不安　（SA　N＝358）

「不安を感じる」（39.1%・140人）、「少し不安を感じる」（38.3%・137人）と続き、75%以上の回答者が何かしらの不安を感じています。



◆　年代と老後の不安の関連　（クロス集計　年齢×老後の不安）

・70歳以上の年齢層よりも40歳-59歳の年齢層で「不安を感じる」、「少し不安を感じる」を選択する割合が高く、80%を越えています。
・39歳以下の層でも「不安を感じる」「少し不安を感じる」を選択する割合が50%を超えています。若年層でも村での老後生活の不安が大きいことが読み取れます。

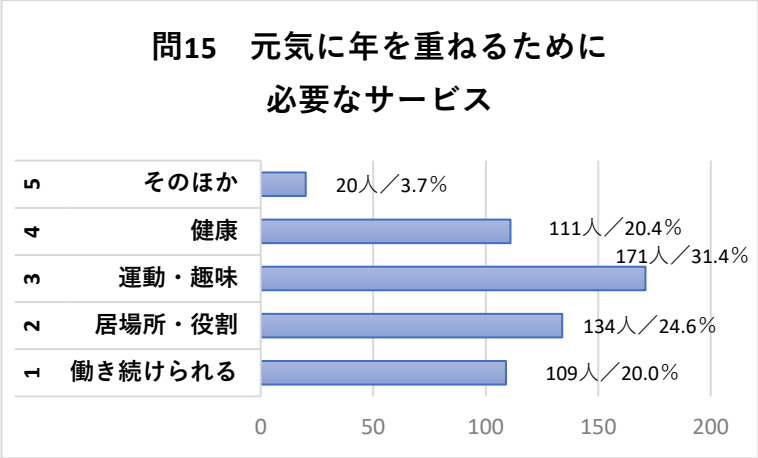


問１４　老後に不安を感じる理由　（FA＝186）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
移動手段に関する不安（買い物・受診・運転など）	44	孤独死が不安	3
ひとり暮らしに関する不安	33	「夫婦二人きり」の不安	3
人口減少による社会情勢変化への不安	23	医療体制の貧弱さへの不安	3
介護が必要となる不安	22	自由に行動ができない不安	2
「施設があいているか」不安	9	冬季の不安（積雪・滑りやすいなど）	2
後継者問題・世代の継続性への不安	8	歩道が狭く、危ない不安	1
どこに相談してよいかわからない不安	7	災害への不安	1
「自宅に住み続けられるか」不安	6	生きがいづくりがわからない不安	1
畑や地所を荒らしてしまう不安	5	障がい者になる不安	1
コミュニティ変化への不安（空き家・行事など）	5	福祉施設の人材不足の不安	1
村の福祉事業に対する不安	3		

問Ｉ５　元気に年を重ねるためにあったら良い施設やサービス　（MA　N≒545）

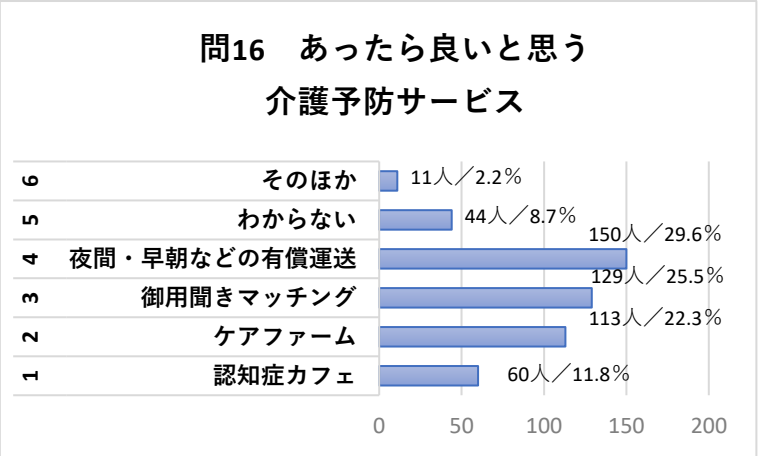
「運動や趣味を中心に活動できる施設や仕組み」（31.4%・171人）が最も高く、「居場所や役割がある施設や仕組み」（24.6%・134人）、「健康について知ることができる施設や仕組み」（20.4%・111人）、「働き続けられる施設や仕組み」（20.0%・109人）と続きます。20%程度の割合が密集しているため、それぞれの項目が必要と感じる人の数が多いことが読み取れます。



その他の回答	類似回答数
趣味を後押しする環境	2
宅配の食事	2
入所施設	2
冬季間のアパート	1
在宅での各種手続き	1
正しい情報と個人の意思の尊重	1
おしゃべり相手	1
自分の技術を生かせる場所や集まり	1
教会等の宗教的施設	1
介護予防教室（松本でやっているようなもの）	1
エクササイズができる施設	1
獣害駆除	1

問Ｉ６　あったら良い介護予防施設やサービス　（MA　N＝507）

「早朝・夜間などの時間帯に通院などで利用できる福祉有償運送」（29.6%・150人）で最も高く、次いで「特技や専門技術を活かせる御用聞きマッチングサービス」（25.4%・129人）、「農作業を通じて介護の進行を遅らせるケアファーム」（22.3%・113人）と続きます。



その他の回答	類似回答数
運動施設（プール・フィットネスなど）	6
教養講座のあるデイサービス	1
みたらしの湯の無料化	1
参加したいと思わせてくれるサービス	1
誰でも参加できる施設	1
近隣での見守りサービス	1
個人の趣味嗜好にあわせた施設	1

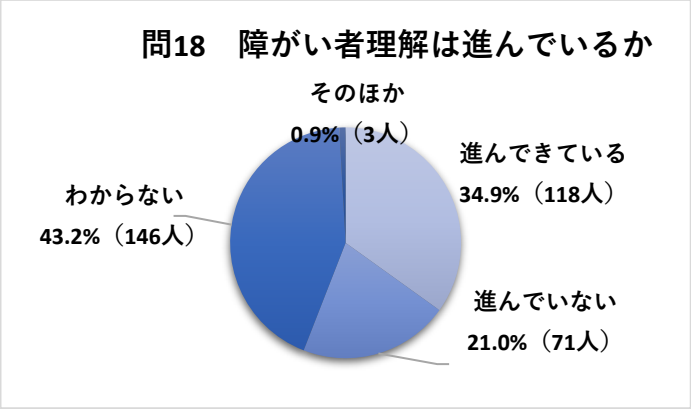
問Ｉ７　高齢者支援に関する自由記載　（FA　N＝55）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
交通手段がない	10	災害時の避難が困難	2
学校や駅にエレベーターが無くて大変	5	どこに相談すれば良いのかわからない	1
村民が施設を利用できないと聞く	5	障がいがあり家庭のあり方に困っている	1
孤立・孤独	4	若い人にも高齢者の現状を知ってほしい	1
日常生活上の手伝い（草刈り・雪かき）をしてほしい	4	バリアフリーの公園を作ってほしい	1
施設利用第一歩が難しい	3	夫婦で同じ施設に入れてほしい	1
身体機能・体力減退による行動制限がある	3	IT機器が使えない	1
認知症の対応が大変	3	高齢者を一人で介護するのは大変	1
働きながら介護する家族の心のケア・集いが必要	2	介護による給与減	1
夜勤者の昼間の近所づきあいや作業が大変	2	貧困	1
老々介護や金銭問題についての専門的助言が足りない	2	おむつが高い	1

５．「障がい者支援」について

問１８　障がいのある人に対する支援は進んできているか（SA　N＝338）

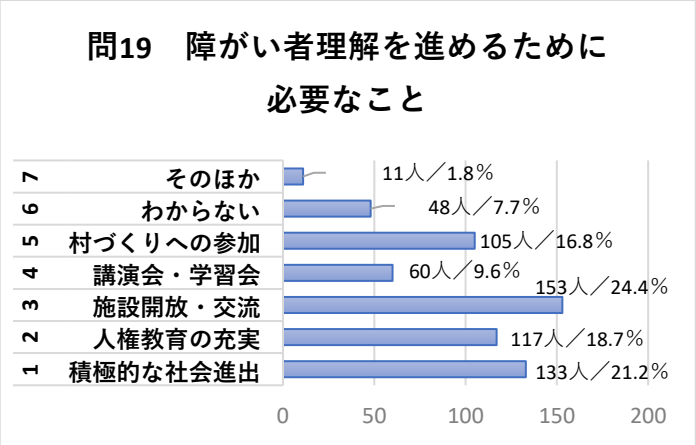
「わからない」（43.2%・146人）が最も高く、次いで「進んできている」（34.9%・118人）と続きます。



その他回答	類似回答数
まわりにいない	1
少し進んでいる	1

問１９　障害のある人に対する理解を進めるために必要なこと　（MA　N＝627）

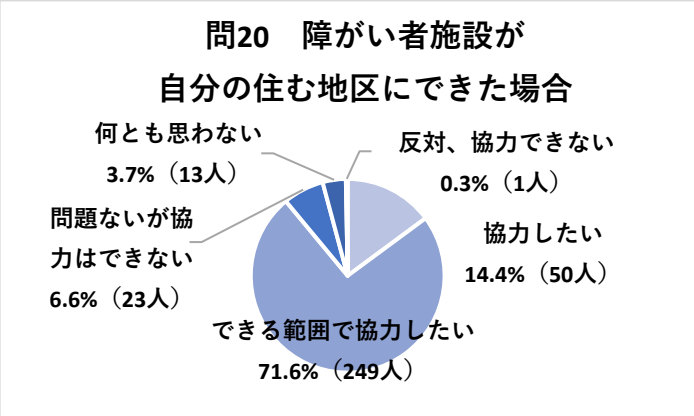
「施設の地域への開放と住民との交流」（24.4%・153人）で最も高く、次いで「積極的な社会への進出」（21.2%・133人）、「学校での人権教育の充実」（18.7%・117人）、「村づくりへの参加」（16.7%・105人）と続きます。問18では「わからない」の回答率が43.2%でしたが問19の具体的質問では10.6%となっており、理解を進めるための村民の意向が示されています。



その他の回答	類似回答数
障がい児が通える保育園・学校の整備と教育	3
子どもが小さいうちからの交流	2
まずは知ることが大切	2
障がいは社会的につくられたものである	2
気軽に出られる雰囲気	1
児童デイや不登校児の居場所づくり	1
障がい者の立場になってみる体験会	1

問２０　障がい者施設が住んでいる地区にできたらどう思うか　（SA　N＝348）

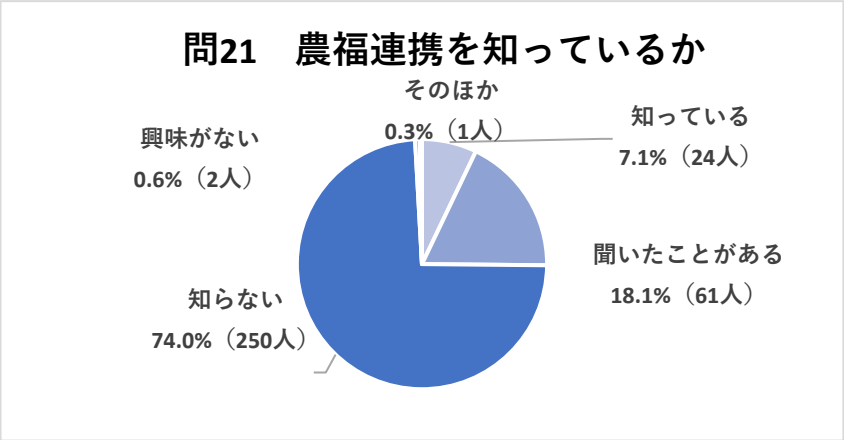
「できる範囲で協力したい」（71.6%・249人）が最も高く、「協力したい」（14.4%・50人）と続きます。村民の86%が「何かしらの協力ができる」との回答となっています。



その他の回答	類似回答数
高齢者施設と併設し交流を	1
障がい者と健常者の区別をなくす	1
勉強の必要がある	1
世話にならないように行動している	1
協力・反対の定義に依存する	1

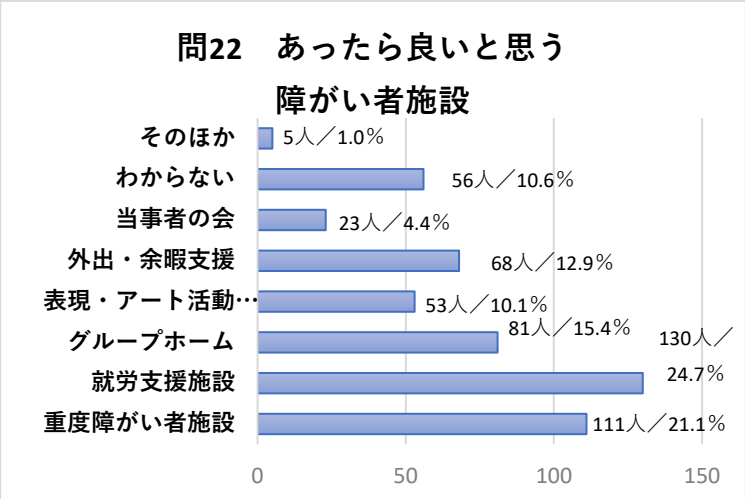
問２１　農福連携を知っているか　（SA　N＝338）

「知らない」（74.0%・250人）が最も高く、次いで「聞いたことがある」（18.0%・61人）と続きます。福祉と農業との連携については認知が低いことがうかがえます。



問２２　あったら良いと思う障がい者施設　（MA　N＝527）

「就労支援施設」（24.7%・130人）が最も高く、「重度障がい者への介護・支援・入浴等ができる施設」（21.1%・111人）と続きます。



その他の回答	類似回答数
軽度・中度・グレーな人が過ごせる場	1
個々のニーズによる	1
困った人が生きていける仕事と家	1
不要	1

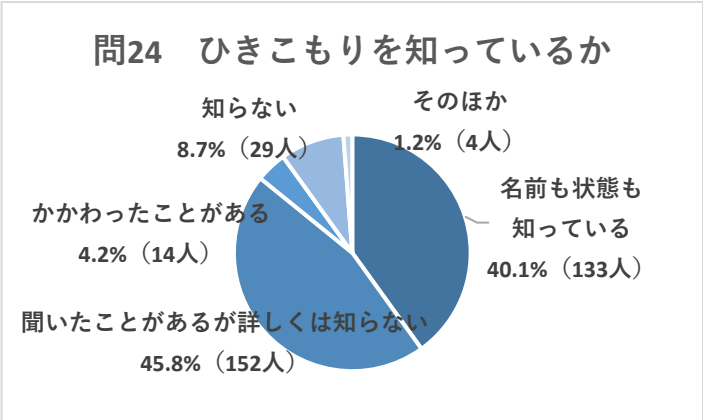
問２３　障がい者支援に関する自由記載　（FA　N＝23）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
親亡き後の障がいがある子ども心配	3	バリアフリーの安価な宿泊施設	1
障がい特性にあわせた支援が足りない	3	緊急時に24時間役場に連絡できるシステム	1
障がい者も楽しめる公園の整備	2	家にいるだけの障がい者が家族の負担になっている	1
コミュニケーションが難しい	2	独居障がい者世帯の問題がある	1
障がい者支援を絶やすことなく続けること	1	目に見えない障がい者はのけものにされてしまう	1
歩道や横断歩道などのインフラ整備	1	麻績村には期待しない	1
グループホームが必要	1	就労支援機関がない	1
アート活動ができる施設は素晴らしいと思う	1	相談支援機関が不明	1
障がい者の村内での居場所づくりを	1		

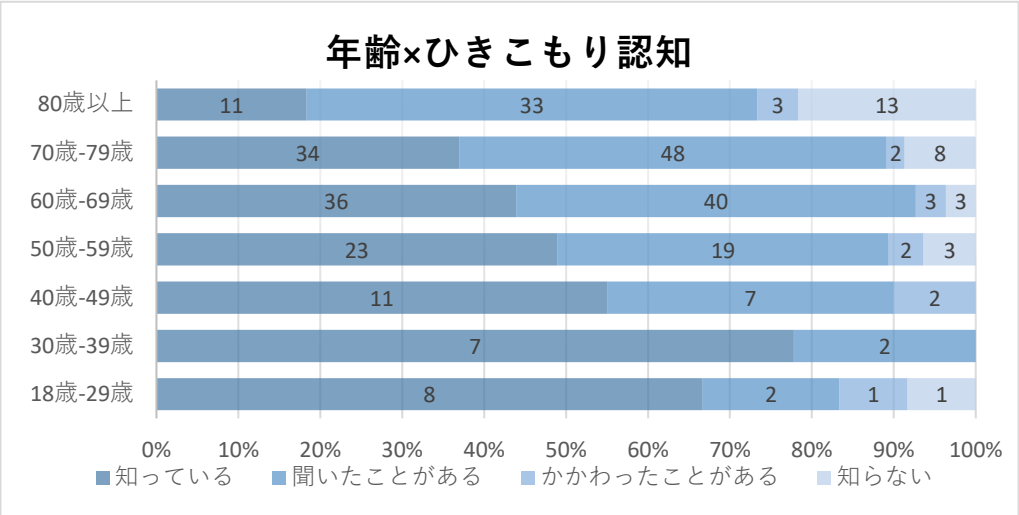
６．ひきこもり者支援について

問２４　ひきこもりを知っているか　（SA　N＝332）／年齢と引きこもり認知の関係（クロス集計）

「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（45.8%・152人）と最も高く、次いで「名前も状態も知っている」（40.1%・133人）と続きます。
若年者のひきこもりへの認知が高いことが読み取れます。

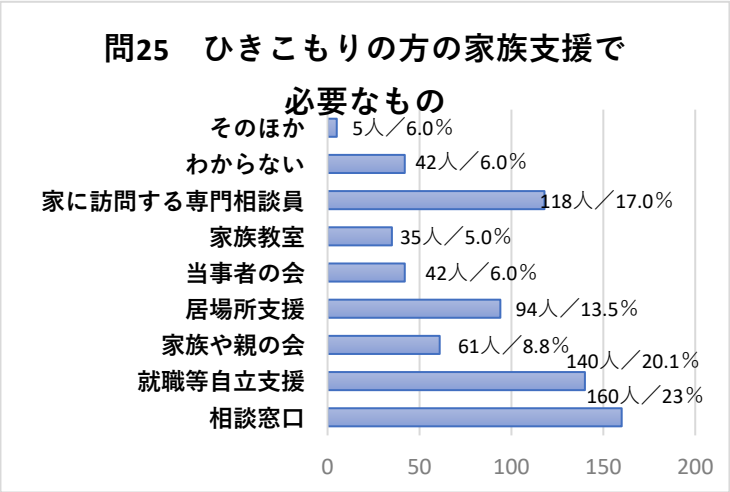


その他の回答	類似回答数
自分	1



問２５　ひきこもりの方の家族支援で必要なもの　（MA　N＝697）

「地域のしがらみなく相談できる窓口」（23.0%・160人）と最も高く、次いで「就職等の自立に向けた支援」が（20.1%・140人）、「家に訪問し、継続して話を聴いてくれる専門相談員」（16.9%・118人）と続きます。何かしらの相談機関が必要との回答が49.9%を占めています。



その他の回答	類似回答数
同級生や友人による支援	1
村としては不要	1

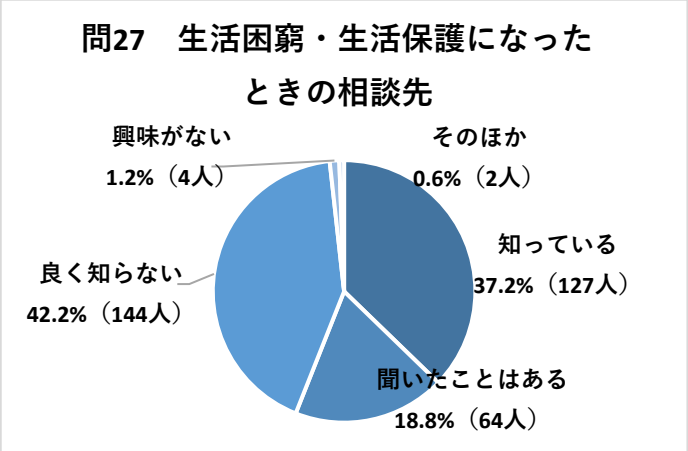
問２６　ひきこもり者支援に関する自由記載　（FA　N＝17）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
家族だけでは難しいが近所の目もあり相談できない	3	デリケートな問題、理解が無いと大変	1
原因や対策がわからずどうしてよいかわからない	2	ひきこもり以前の健康への理解が必要	1
親亡き後の不安	2	低年齢からのひきこもり者の問題	1
フリースペースは大切	2	学校以外での受入れ先、活躍できる場	1
普通に接する	1	常会の役員をしてもらえない	1
生きること、前に進むことに疲れている	1	親が隠している	1

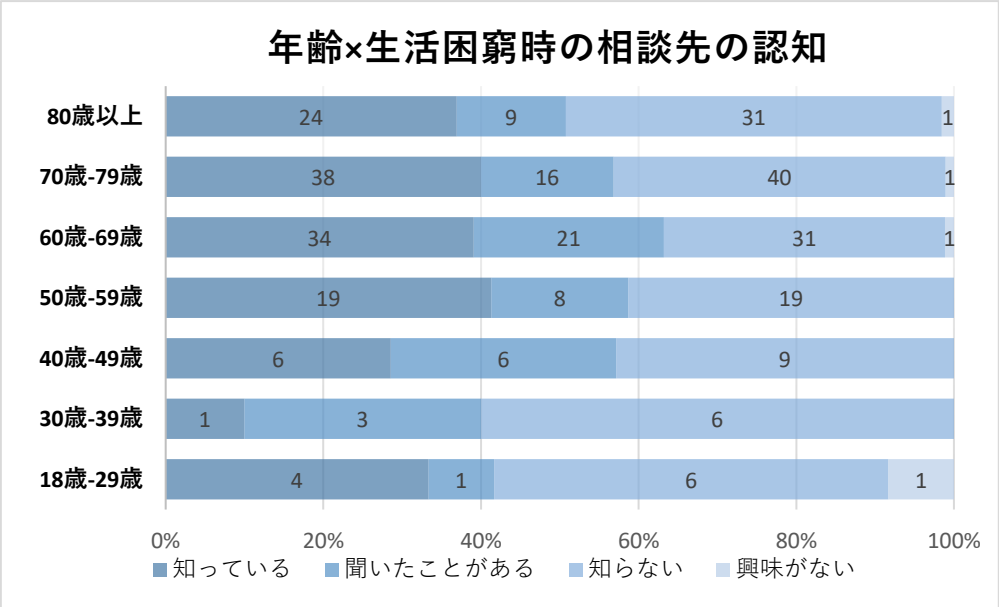
７．生活困窮者・生活保護受給者支援について

問２７　生活困窮・生活保護になったときの相談先（SA　N＝341）
／年齢×困窮時の相談先（クロス集計）

「よく知らない」（42.2%・144人）が最も高く、次いで「知っている」（37.2%・127人）と続きます。同程度の比率で「知っている、知らない」が分かれる結果となっています。18歳-39歳では「よく知らない」と答えた割合が60%近くとなっています。若年層に対する困窮制度の周知が不十分であることが読み取れます。

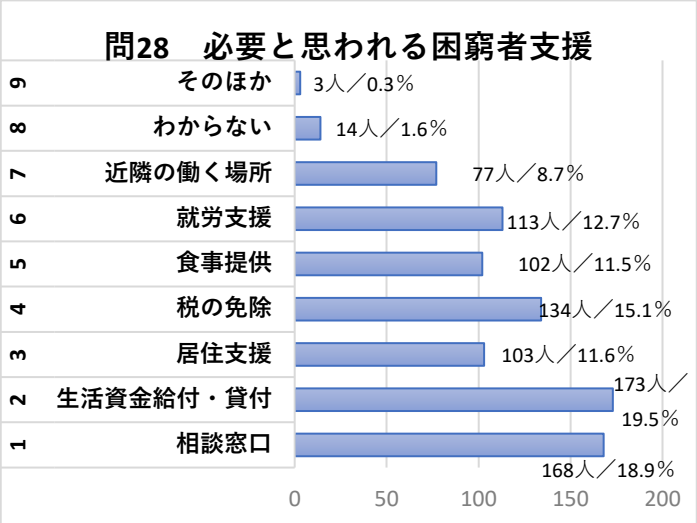


その他の回答	類似回答数
NHKの番組で知っている	1
役場関係	1



問２８　生活困窮者・生活保護になったときの必要な支援　（MA　N＝887）

「生活資金給付・貸付」（19.5%・173人）、「相談窓口」（18.9%・168人）、「税の免除」（15.1%・134人）と続きます。回答数が887あり、困窮者に関する住民の関心が高いことがうかがえます。回答項目1～6は10%以上の人が「必要」との回答となっています。



その他の回答	類似回答数
話を聴く	2
プッシュ型の給付	1
生活物資支援	1
スーツや洋服の貸し出し	1
支援は必要ない	1
移住支援	1

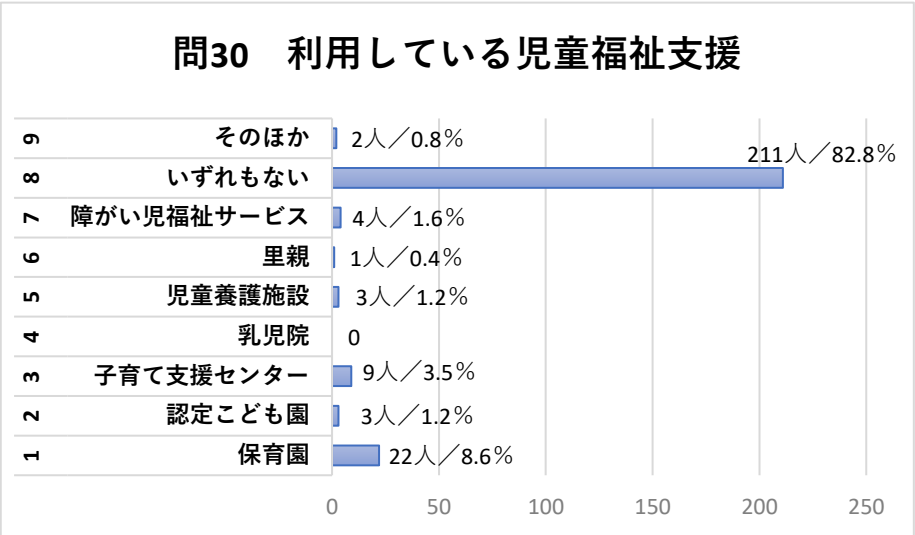
問２９　生活困窮者・生活保護者支援に関する自由記載　（FA　N＝7）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
14歳以下の子どもより困窮者に先にお金をまわすべき	1	生活保護費を散財してしまう人がいる	1
年金では生活できないので無理して働いている	1	生活保護費が安い	1
病気で働けなくなり生活困窮者になった	1	車上生活をしている人を見かけることがある	1
生活保護を受けることに抵抗がある人がいる	1		

８．児童福祉支援について

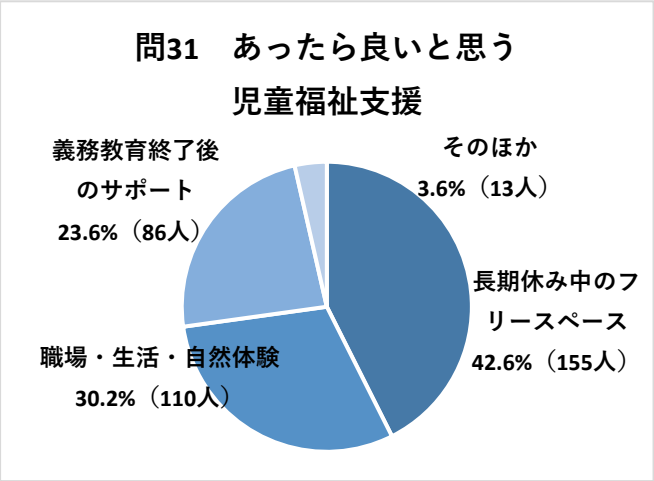
問３０　利用している児童福祉支援　（MA　N＝255）

「いずれもない」（82.7%・211人）が最も高くなっています。次いで「保育園」（8.6%・22人）と続きます。60歳以上の回答者割合が74.4%であることから、回答者世帯に児童がいない（同居していない）割合が高いことがうかがえます。

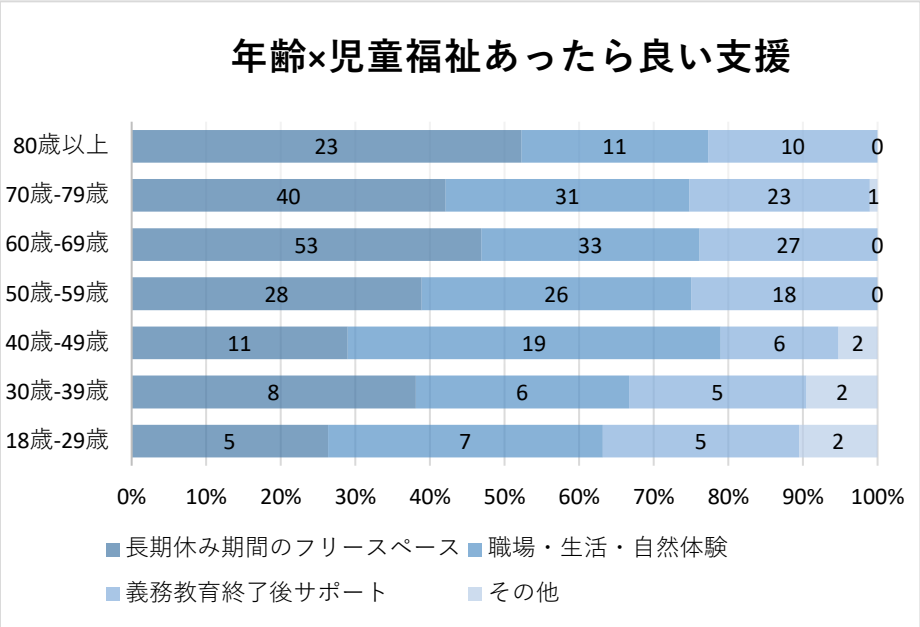


問３１　あったら良い児童福祉支援（MA　N＝364）
／年代×あったら良い児童福祉支援（クロス集計）

「長期休み中に利用できるフリースペース」（42.6%・155人）と最も高くなっています。次いで「職業・生活・自然体験ができる場所」（30.2%・110人）、「義務教育終了後のサポート」（23.6%・86人）と続きます。
「その他」を選択した割合が18歳-49歳までは多く、選択肢以外の支援を求めている可能性が読み取れます。



その他の回答	類似回答数
子どもの急な発熱等に対応してくれる場所	2
保育園以外の平日過ごせる場	1
学習スペース	1
子ども食堂	1
高校授業料無償化	1
新聞の無料補助	1
山の地形を生かした公園や遊具	1



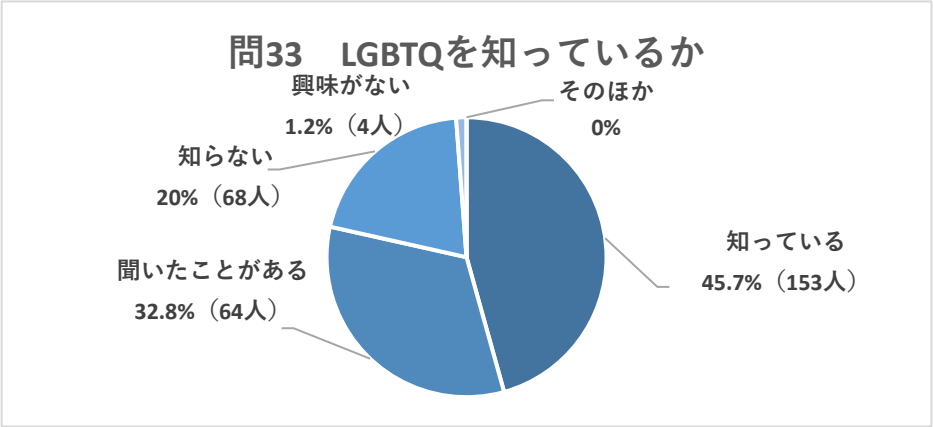
問３２　児童福祉支援に関する自由回答　（FA　N＝20）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
義務教育中の教育、福祉の連携が大切	3	土日祝日に子どもと過ごせる場所	1
急用時、病中に子どもを見てもらいたい	3	子育て支援センターに授乳スペースの設置を	1
高校授業料が高すぎる、減額してほしい	2	小中一貫なら放課後に合同イベントをしたい	1
土日祝日に子どもを預かってもらえる場所	2	少子化により大学進学への門戸を拡げてほしい	1
平日・休日に利用できるフリースペース	2	核家族の居場所があればよい	1
保育時間が短すぎる	2	松本市のサービスに満足している	1

９．LGBTQ（性的少数者）の支援について

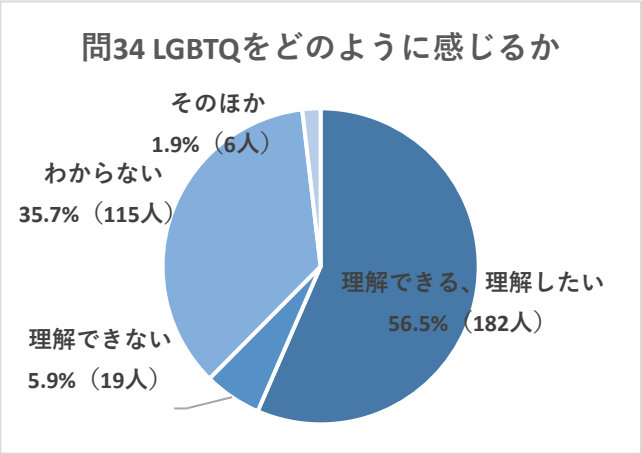
問３３　LGBTQを知っているか　（SA　N＝335）

「知っている」（45.7%・153人）が最も高く、次いで「聞いたことがある」（32.8%・110人）と続きます。比較的新しい概念に住民の認知があることがうかがえます。



問３４　LGBTQをどのように感じるか　（SA　N＝322）

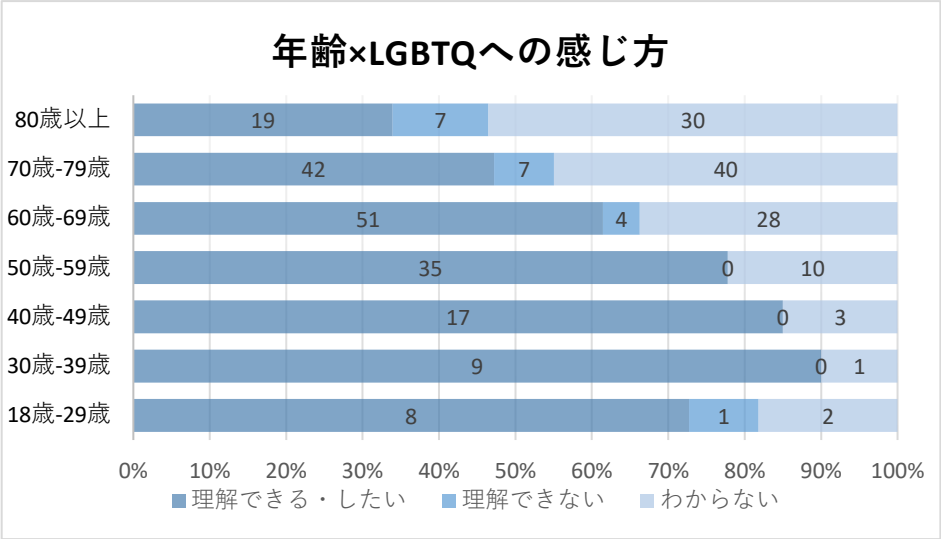
「理解できる・理解したい」（56.5%・182人）と最も高くなっています。次いで「わからない」が（35.7%・115人）で続きます。



その他の回答	類似回答数
理解できるとは言えないが努力したい	2
関与せず本人に任せる	1
その状態にならないとわからない	1
男同士だと違和感がある	1
特に何も感じない、普通	1

◆　年代とLGBTQへの感じ方の違い　（クロス集計　年齢×LGBTQへの感じ方）

18歳-59歳までの年齢層では75%以上が「理解できる・理解したい」と回答しています。



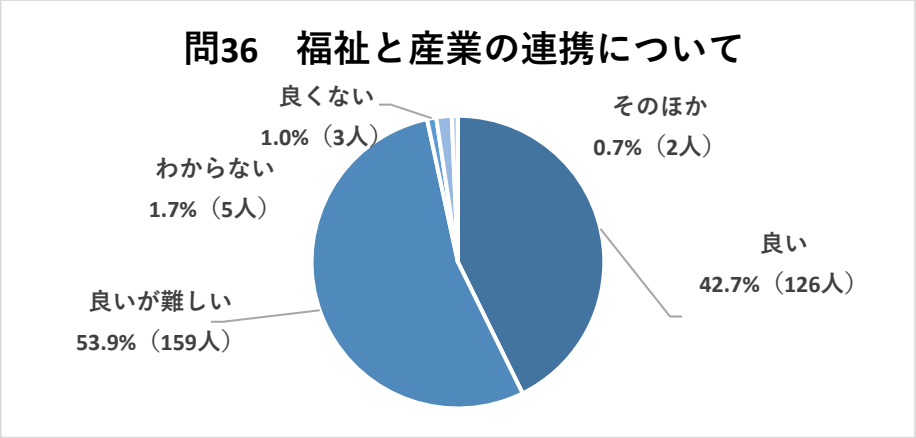
問３５　LGBTQ者支援に関する自由回答　（FA　N＝12）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
人に打ち明けることができない、相談する場がない	2	金銭面での支援が受けづらい	1
周知することが大切	2	女性差別もなくならないのにLGBTQ支援ができるのか	1
変わらずに接する	1	周囲の人に理解してもらいにくい	1
友人には言えても家族には言えない	1	年齢が高い人ほど受け入れがたい	1
トイレの問題がある	1	支援は不要	1

１０．福祉と地域産業について

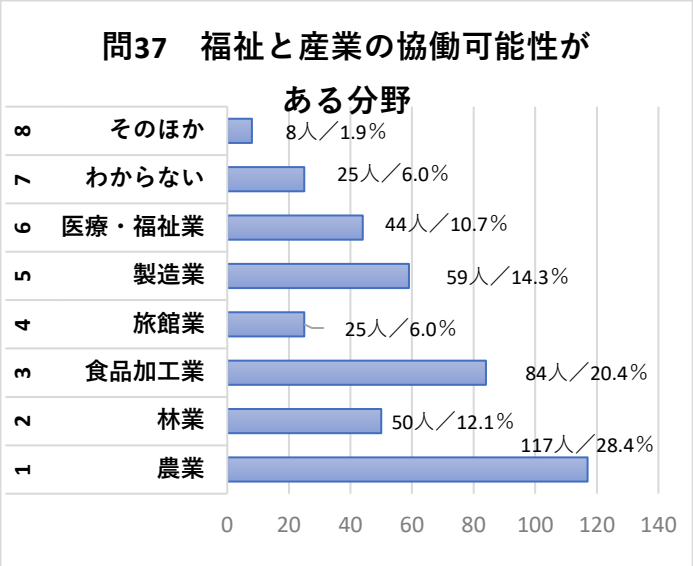
問３６　福祉施設と地域産業の連携について　（SA　N＝295）

「良いが難しい」（53.9%・159人）と最も高く、次いで「良い」（42.7%・126人）と続きます。



問３７　福祉と産業の協働可能性のあると思う分野　（MA　N＝412）

「農業」（28.4%・117人）で最も高くなっています。次いで「食品加工業」（20.4%・84人）と続きます。製造業（14.3%・59人）、林業（12.1%・50人）、医療・福祉業（10.7%・44人）も10%を越えています。

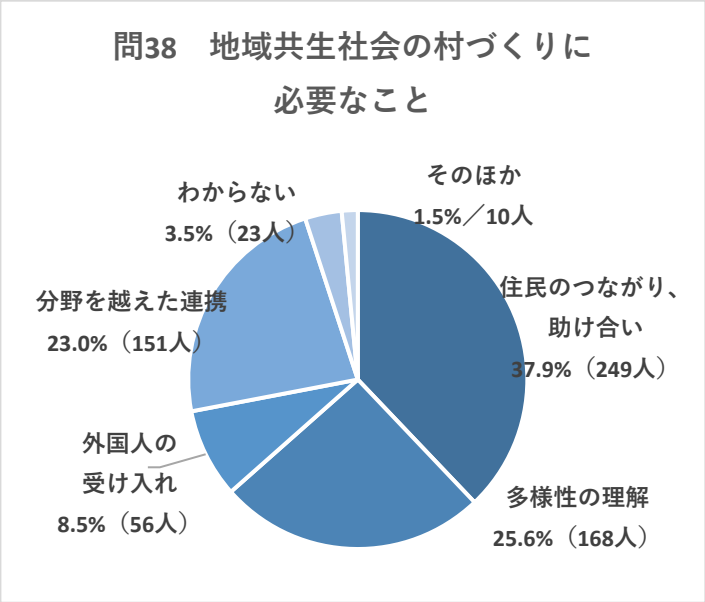


その他の回答	類似回答数
それぞれの人にあった分野	2
最新技術の応用	2
あらゆる産業で可能だと考える	1
飲食業、カフェ	1
農作業は人手不足	1
この中にはない	1

１１．さいごに

問３８　地域共生の村づくりに必要なこと　（MA　N＝657）

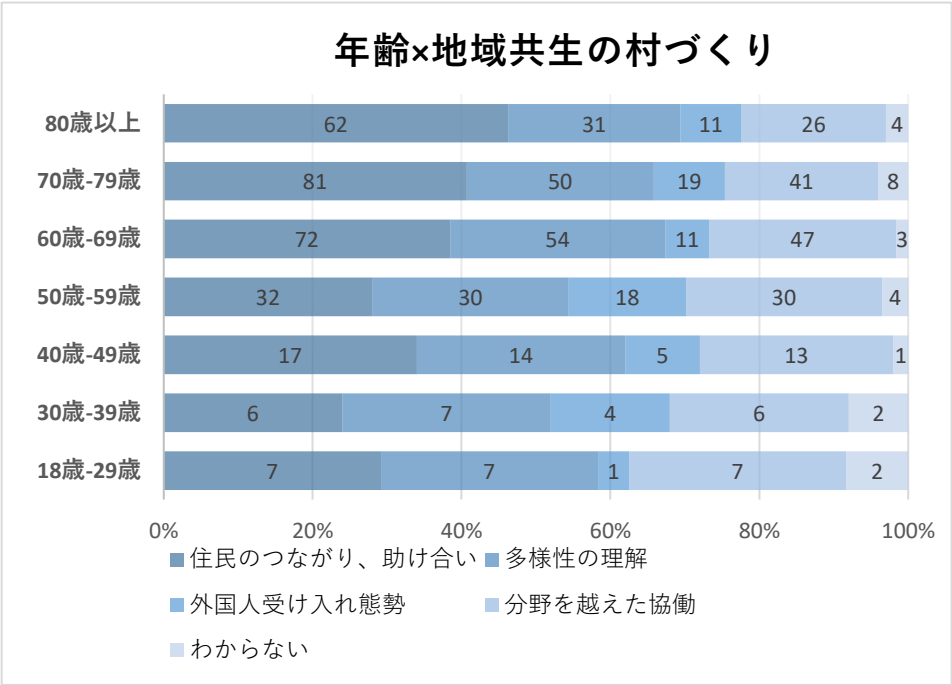
「住民のつながり、助け合い」（37.9%・249人）が最も高く、次いで「多様性の理解」（25.6%・168人）、「分野を越えた協働」（23.0%・151人）と続きます。「外国人の受け入れ態勢」（8.5%・56人）も肯定的にとらえる層がいることが読み取れます。

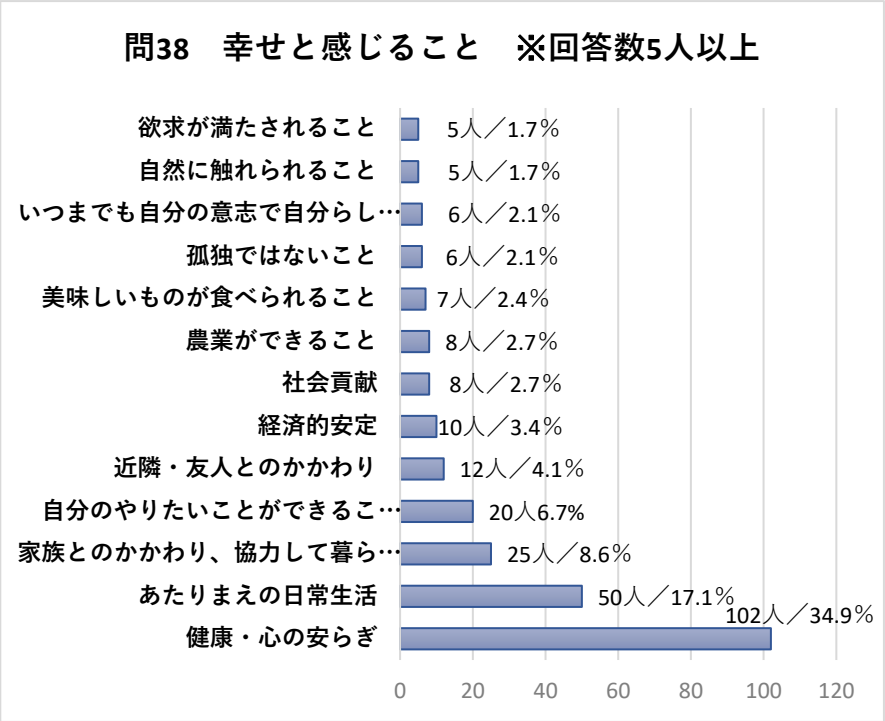


その他の回答	類似回答数
制度の狭間にいる人への支援	1
麻績・筑北組合立での地域づくり	1
支援を求める部分の整理	1
移住者を受け入れる気持ち	1
記載の選択肢が自然体でできること	1
特産品を生みだし雇用を	1
家族が果たすべき役割	1
介護保険料を大事に使ってほしい	1
挨拶	1

◆　年代と地域共生の村づくりイメージの違い　（クロス集計　年齢×地域共生の村づくり）

60歳以上では「住民のつながり・助け合い」の比率が40%程度となっていますが、そのほかの年齢層では「多様性の理解」、「外国人の受け入れ態勢」、「分野を越えた協働」の割合が大きくなる傾向が見られます。



問３９　「幸せと感じること」に関する自由記載　（FA　N＝292）

自由回答	類似回答数	自由回答	類似回答数
健康・心の安らぎ	102	ストレスの無い社会	4
あたりまえの日常生活	50	自然のままに生きること	4
家族とのかかわり、協力して暮らせること	25	子どもの成長	3
自分のやりたいことができること・自己実現	20	働くことができること	3
近隣・友人とのかかわり	12	子育て中にもほっとできる場があること	2
経済的安定	10	高い教育がうけられること	1
社会貢献	8	ボケないこと	1
農業ができること	8	安らかな死	1
美味しいものが食べられること	7	飲酒	1
孤独ではないこと	6	正しく指導できる地方行政の出現があったとき	1
いつまでも自分の意志で自分らしく暮らすこと	6	役場と村民の気持ちが一緒だと嬉しい	1
自然に触れられること	5	人様に披露することではない	1
欲求が満たされること	5	幸せを感じることはない	1
相談できる人がいること	4